

## 平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	心理学(Psychology)	授業コード	E040151
担当教員名	高橋 淳一郎	科目ナンバリングコード	E11001
配当学年	1年	開講期	後期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	社会福祉士の指定科目(選択)です。 NSCA-CPTの指定科目です。		
受講心得	遅刻、講義中の携帯電話の使用、おしゃべり、無断外室など、他の学生に迷惑のかかる行為は禁止です。大学生として最低限のマナーは守って履修してください。		
教科書	やさしく学べる心理学 小島一夫・福森崇貴・鈴木真吾 北樹出版		
参考文献及び指定図書	新・社会福祉士養成講座 第2巻 心理学理論と心理的支援 社会福祉士養成講座編集委員会(編) 中央法規 新・介護福祉士養成講座 第13巻 障害の理解 介護福祉士養成講座編集委員会(編) 中央法規 新・介護福祉士養成講座 第14巻 こころとからだのしくみ 第2版 介護福祉士養成講座編集委員会(編) 中央法規 福祉心理臨床学 十島雍蔵(編) ナカニシヤ出版 パーソナルトレーニングの基礎知識 福永哲夫(監修) Essentials of Personal Training Beachle,T.R. & Earle,R.W.		
関連科目	発達心理学、臨床心理学、社会心理学、カウンセリング、精神保健学、心理アセスメント、その他社会福祉士指定科目およびNSCA-CPT指定科目		

授業の目的	主として福祉やスポーツトレーナーに携わろうとする学生が、心理学の概要から発達段階、人間理解、心理的援助の方法など福祉およびスポーツに密接な関係にある心理学的知識を身につけることを目的とする。
授業の概要	心理学的知識は、人に関わる様々な分野を理解するために必要な知見を与えてくれます。この講義では幅広い心理学の中から、特に福祉とスポーツに比較的近い領域のエッセンスを紹介していきます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：オリエンテーション</b> そもそも心理学とはどのような学問なのでしょう。大学に入って初めて本学的に触れることとなる「心理学」というものがどのように日常に活かされているのか簡単に紹介しながら、人間理解を広げていきます。	テキストp11～p20 リアクションペーパー提出
<b>第2週：動機づけ</b> 人間の行動には必ず理由があります。我々人間を突き動かす欲求とは何かを理解し、欲求不満状態から感じるストレスについて学んでいきます。そのうえで、適切な目標設定を行なうための目標の種類や志向、多様性等を理解し、目標を達成させるための動機づけの方法について学びます。	補助プリント リアクションペーパー提出
<b>第3週：感覚・知覚・認知</b> 一般に五感と言われるものは多くの学生が知っているでしょう。それらを使って我々がどのように外界を知ることができるのか、さらに自己の内部環境を知るための感覚についても学んでいきます。人間が外界の情報を自分の中に取り込んで理解する過程である知覚や認知について、その過程を学んでいきます。	テキストp21～41 リアクションペーパー提出
<b>第4週：感情と情動</b> 人間は非常に感情やその表現が豊かな生き物です。それゆえに感情や情動といったものにはとても敏感に反応する側面をもっています。しかし、感情や情動がどのように引き起こされるのかは個人差があり、その心理的しくみを理解している学生も少ないでしょう。ここでは脳の機能から感情・情動のしくみについて理解していきます。	補助プリント リアクションペーパー提出
<b>第5週：学習と記憶</b> これまで私たちは様々な行動を学習してきました。心理学で言う「学習」とは非常に幅広い意味を含みますので、その点について解説した上で、覚えることと忘れることの過程について学んでいきます。	テキストp42～p65 リアクションペーパー提出
<b>第6週：成長・発達①</b>	

<p>人間は一生を通じて成長・発達を続けます。ここでは生涯発達の観点からエリクソンの心理社会的発達理論をベースに、一生の前半部分である乳児期から青年期までの発達課題について考えていきます。子どもの成長発達と愛着の関係や親になることの意味、青年期における自我同一性の獲得までの心の葛藤やモラトリアムをめぐる問題など、まさに学生がこれまで経験してきたこのと発達の意義について理解を深めてもらいたいと思います。</p>	<p>テキストp66～p79,p145～p152 リアクションペーパー提出</p>
<p><b>第7週：成長・発達②</b></p> <p>第6回に引き続き、成人期から老年期までの一生の後半部分の発達課題について考えていきます。加齢に伴う心身の変化や日常生活の変化、家族内や地域での役割など、特に老年期というまだ学生には見えにくいところを理解できるようビデオなどで実際の姿を見てもらいます。また、成人期から老年期に出現しやすい病気と健康維持のために必要な医療との連携などについて、高齢者の医療に関わる法律なども取り入れながら説明し、その二次的な障害などについて理解を深めていきます。「年を取る」ということはネガティブにも思われがちですが、その価値を発見してもらいたいと思います。</p>	<p>テキストp80～p88 リアクションペーパー提出</p>
<p><b>第8週：老年期の認知症</b></p> <p>第7回で老年期について学びますが、老年期をめぐる問題で大きなテーマである認知症を特別に取り上げていきます。ここでは認知症の中核症状や周辺症状、原因などについて解説しながら認知症の行動および心理的な影響といった認知症高齢者の日常生活への理解を深めるとともに、アセスメントや治療の実際、そして予防方法や認知症高齢者へのチームアプローチのあり方および家族への支援方法について考えていきます。また、認知症に対する理解やそのケアのあり方がどのように変遷していったのかなど、認知症を取り巻く歴史と現状についてもお話をしていきます。</p>	<p>テキストp153～p156 リアクションペーパー提出</p>
<p><b>第9週：人格・知能</b></p> <p>自分はもちろん他者のパーソナリティを理解することは、対人関係を円滑にしていくうえでも比較的重要なポイントとなるでしょう。そもそもパーソナリティとは何か、そしてどのように理解していけばいいのか、主要な人格・性格理論を紹介しながら考えていくと同時に、「その人らしさ」とは何か考えていきます。さらに知能や創造性をめぐる問題についても考えていきます。</p>	<p>テキストp89～p113 リアクションペーパー提出</p>
<p><b>第10週：社会と人間</b></p> <p>私たちは常に他者との関係の中で生きています。その中でお互いに影響し合い、さまざまな現象へと発展することがあります。ここでは自らが他者へ与える影響、そして他者が自分に与える影響について学び、「社会的動物」と言われる人間の行動について考えます。</p>	<p>テキストp114～p130 リアクションペーパー提出</p>
<p><b>第11週：人間理解の基礎</b></p> <p>ここでは人間個人を全体として理解していくことを目的として、現代心理学の大きな柱の一つである精神分析理論と行動理論を対比させながら概説していきます。我々の行動やパーソナリティなどをつかさどっているものは何なのか、そして普段何気なく使っている「無意識」という言葉の本当の意味について考えてください。</p>	<p>補助プリント リアクションペーパー提出</p>
<p><b>第12週：障害の理解</b></p> <p>一口に障害といってもその内容は非常に多岐に渡ります。ここでは身体障害や発達障害などについて、その医学的・心理学的特徴や生活などとともに障害の概念や障害者福祉の考え方の変遷について「国際生活機能分類」も取り上げながら理解していきます。また、障害が及ぼす心理的影響や障害受容の過程、適応などについての理解とともに、家族への心理的支援や福祉職および保健医療職などの他職種連携におけるチームアプローチの必要性について理解を深めていきます。</p>	<p>補助プリント リアクションペーパー提出</p>
<p><b>第13週：アセスメント</b></p> <p>心理テストはとても幅広く、数多くのものが作られています。その中から知能や発達、人格などの測定と診断方法について学びます。また、第8回および第12回との関連として認知症のアセスメントやその他障害のアセスメントについて理解を深めていきます。</p>	<p>テキストp132～p138 リアクションペーパー提出</p>
<p><b>第14週：心理学的支援の技法①</b></p> <p>社会福祉の現場では臨床心理学的なアプローチによる援助も非常に大切となってきます。また、トレーナーとして他者を導く場面においても相手を理解し、その関係性を深めていくことは重要です。ここではクライアントに寄り添い理解しながら話に耳を傾ける技法など、主に面接などマンツーマンの場面で活用される技法について学んでいきます。</p>	<p>テキストp139～p144 リアクションペーパー提出</p>
<p><b>第15週：心理学的支援の技法②</b></p>	

<p>ここでは作業療法や行動療法およびストレスマネジメントなど、リハビリ・治療的援助とこころの健康維持に関わる技法とその理論をいくつか紹介し、メンタルヘルスやストレス対処、そして健康の増進や疾病予防に与える身体的運動の心理的効果について考えていきます。</p>		補助プリント リアクションペーパー提出
<p><b>第16週：期末試験</b></p> <p>これまでの内容について論述形式の試験を実施します。自筆ノートおよび講義内に配布したプリントは持ち込み可とし、試験時間は60分です。</p>		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	① 人間行動の背景について理解できる。
<b>【知識・理解】</b>	② ライフサイクルとそれぞれのステージにおける適応について理解できる。 ③ 人間が外界の情報を自分の中に取り入れていく仕組みについて理解できる。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	④ メンタルヘルスと目標設定、動機づけの手法について理解できる。
<b>【思考・判断・創造】</b>	⑤ 対人援助の理論および方法の基本的なことを理解できる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		5点	20点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	30点	5点		
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点	5点		
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。	20点	5点		
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	毎回の講義の最後にリアクションペーパーを提出してもらいます。その内容について点数化し、評価に加えます。評価方法は以下の通りです。 A 講義の内容をよく理解し、振り返りながら自分の考えをしっかりと述べている。 B 講義の内容をよく理解し、振り返ることができる。 C 講義の内容をだいたい理解し、振り返ることができる。 D 講義の内容を一部理解し、振り返ることができる。
発表・その他(無形成果)	出席点を20点満点とし、1回の欠席ごとに2点を減点する方式で評価に取り入れます。